

第73回全国植樹祭いわて2023



全国植樹祭とは!?

全国植樹祭は、森林・緑の大切さをより深く国民の皆様を知っていただくため、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県が共催で行う行事です。

昭和25年に山梨県で第1回大会が開催されて以来、毎年春季に各都道府県を会場に開催されています。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぐ四大行幸啓行事の一つとして、県内外から多くの参加者を迎えて式典行事や記念植樹が行われています。



令和元年愛知大会の様子

第73回全国植樹祭いわて2023開催概要

◇時期 令和5年春季

◇会場 高田松原津波復興祈念公園（陸前高田市）

岩手県では、昭和49(1974)年5月に旧松尾村(現八幡平市)で開催された第25回大会以来、49年ぶり2回目の開催となります。

今回の大会では、森林や緑の大切さに加え、東日本大震災津波からの復興の姿を発信します。



◇大会テーマ

『緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から』

宮沢賢治が理想郷として表した「イーハトーブ」が、自然と人が調和する岩手県らしさを象徴しています。

また、「緑をつなごう」と「輝く」により、豊かな森林の継承、震災復興からの明るい未来を表し、全体として岩手県の魅力と全国植樹祭の開催理念を表現しています。

◇開催理念

- 1 県民総参加による森林づくりと、森林資源の循環利用を推進します。
- 2 森林の恩恵を県内外にアピールし、健全で豊かな森林を次の世代へ引き継いでいきます。
- 3 世代を越え県を越え全国の皆様に参加できる全国植樹祭にします。
- 4 感謝の気持ちを込めて東日本大震災津波からの復興の姿を国内外へ発信します。

◇シンボルマーク

森をイメージした緑のキャラクターが、笑顔で岩手県のPRキャラクター「そばっち」を包みこむ様子は、「人と自然との共生」を表現するとともに、大会テーマにも通じる内容となっています。

また、輪郭が県名の由来でもある三ツ石神社の石や岩手県の形にも似ているなど、岩手県らしさを表現しています。



◇行事内容

- ・天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播きのほか参加者による植樹を行います。
- ・大会テーマを表現する様々なアトラクションを行います。
- ・様々な国土緑化活動に関する功労者への表彰を行います。

